

# 第1号議案 令和7(2025)年度 事業報告

## 2025年度 事業運営総括

### 1. 総論

2025年度は、3カ年計画で掲げた

「①法人構造の構築」「②人材の育成」「③事業所運営の適正化」の3本柱を軸に、法人運営の基盤強化と安定化に向けた取組を進めた年度である。

経費の見直しや人員整理、管理体制の再整理を通じ、運営上の土台整備は一定程度前進した一方、管理者機能の分散化や法人全体としての連動性には、引き続き課題が明確となった。

### 2. 重点項目別の実施状況と評価

#### ① 法人構造の構築（管理体制・BCP等）

- (1) 人員整理や経費構造の見直しを行い、経営・運営面の整理が進んだ
- (2) 管理体制の再点検により、課題の可視化は一定程度達成

##### 【課題】

- (1) 管理者による労務管理能力に差があり、法人として均一な管理体制には至っていない
- (2) 法定委員会運営が特定の担当者に集中し、運営の属人化が解消できていない
- (3) その影響により、BCPについては「策定・見直し」は進むものの、実運用の定着が不十分

#### ② 人材の育成・人材確保

- (1) 資格研修・外部研修の管理体制はキャリアパスの設定により一定程度整備できた

##### 【課題】

- (1) 法人内研修の企画・運営が特定の担当者依存となり、十分な実施に至らなかった
- (2) 新卒入職がなく、中長期的な人材確保・育成の仕組みづくりが未確立

#### ③ 事業所運営の適正化

- (1) 各事業所において年間計画および運営目標の策定は概ね実施できた
- (2) 固定費・経費の見直しに着手し、改善の方向性を示すことができた

##### 【課題】

- (1) 法人全体としての目標共有が弱く、事業所ごとの取組が個別最適に留まっている
- (2) 多職種連携に対する意識が十分に浸透していない
- (3) 経費・収支に対する当事者意識が職員全体に十分定着していない

### 3. 総括と2026年度に向けた方向性

2025年度は、法人運営における「基礎整備・課題の可視化」の年度であり、経費、人員、管理体制など運営基盤の整理は一定の成果を上げた。

2026年度に向けては、これらを踏まえ各部門・各事業所の管理者が法人の一員として機能する体制の構築管理者間の連携強化、役割分担の明確化、法人内研修・BCP・法定委員会運営の「属人化から組織化」への転換を重点的に進め、「法人として機能する体制強化」を図っていく。

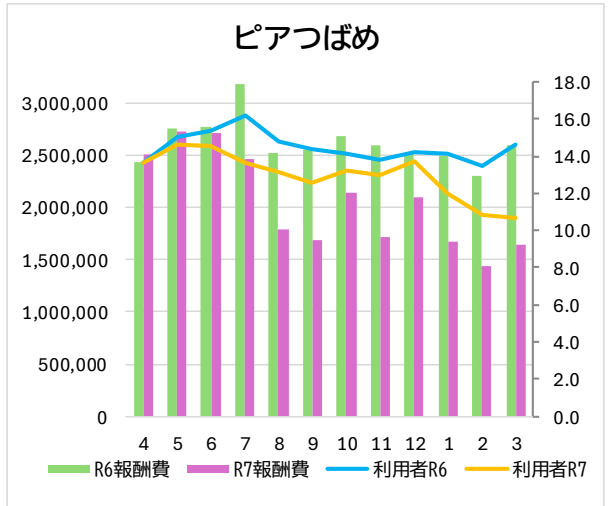
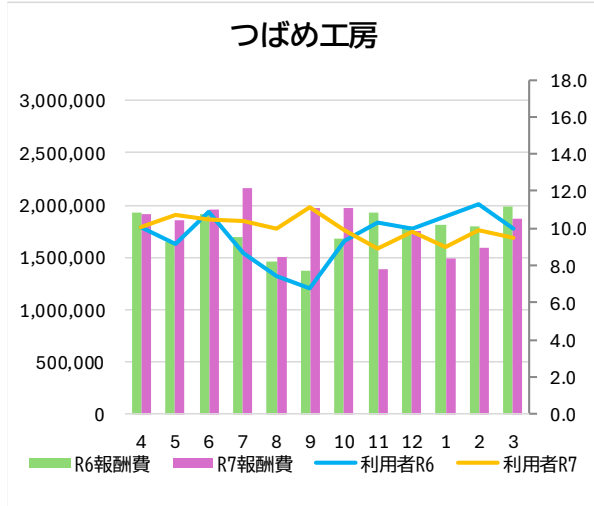
国保連報酬費 前年比(令和6.7年)

就労継続支援B型事業所

(単位/円)

報酬費	つばめ工房		
	R7報酬費	R6報酬費	前年差額
4月	1,915,980	1,928,595	-12,615
5月	1,861,907	1,653,901	208,006
6月	1,961,484	1,916,499	44,985
7月	2,158,699	1,698,706	459,993
8月	1,511,067	1,453,702	57,365
9月	1,970,724	1,377,557	593,167
10月	1,974,306	1,674,342	299,964
11月	1,383,707	1,927,019	-543,312
12月	1,748,140	1,792,051	-43,911
1月	1,493,776	1,816,906	-323,130
2月	1,598,757	1,801,941	-203,184
3月	1,864,390	1,980,015	-115,625
合計	21,442,937	21,021,234	421,703
月平均	1,786,911	1,751,770	102.0%

報酬費	ピアつばめ		
	R7報酬費	R6報酬費	前年差額
4月	2,509,262	2,436,572	72,690
5月	2,719,948	2,752,427	-32,479
6月	2,709,967	2,766,090	-56,123
7月	2,455,192	3,171,229	-716,037
8月	1,787,153	2,519,736	-732,583
9月	1,679,098	2,550,167	-871,069
10月	2,133,504	2,677,360	-543,856
11月	1,714,275	2,593,538	-879,263
12月	2,096,792	2,515,287	-418,495
1月	1,675,124	2,494,329	-819,205
2月	1,435,884	2,295,622	-859,738
3月	1,640,602	2,588,753	-948,151
合計	24,556,801	31,361,110	-6,804,309
月平均	2,046,400	2,613,426	78.3%



利用者数 前年比(令和6.7年)

1日平均利用者数 実績表

(単位/人)

	つばめ工房		
	B型		
	利用者R7	利用者R6	前年差
4月	10.1	10.1	0.0
5月	10.7	9.2	1.5
6月	10.5	10.9	-0.4
7月	10.4	8.7	1.7
8月	10.0	7.4	2.6
9月	11.1	6.8	4.3
10月	9.9	9.3	0.6
11月	8.9	10.3	-1.4
12月	9.8	10.0	-0.2
1月	9.0	10.6	-1.6
2月	9.9	11.3	-1.4
3月	9.5	10.0	-0.5
合計	119.8	114.6	5.2
月平均	10.0	9.6	104.5%

	ピアつばめ		
	B型		
	利用者R7	利用者R6	前年差
4月	13.6	13.6	0.0
5月	14.6	15.0	-0.4
6月	14.5	15.4	-0.9
7月	13.6	16.2	-2.6
8月	13.1	14.8	-1.7
9月	12.6	14.4	-1.8
10月	13.2	14.1	-0.9
11月	13.0	13.8	-0.8
12月	13.7	14.2	-0.5
1月	12.0	14.1	-2.1
2月	10.8	13.5	-2.7
3月	10.7	14.6	-3.9
合計	155.4	173.7	-18.3
月平均	13.0	14.5	89.5%

報酬	【つばめ工房】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
		予算	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	1,875,000	22,500,000
実績	1,915,980	1,861,907	1,961,484	2,158,699	1,511,067	1,970,724	1,974,306	1,383,707	1,748,140	1,493,776	1,598,757	1,864,390	21,442,937		
達成率	102.2%	99.3%	104.6%	115.1%	80.6%	105.1%	105.3%	73.8%	93.2%	79.7%	85.3%	99.4%	95.3%		
授産	【ピアつばめ】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
		予算	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	254,417	3,053,000
		実績	154,166	151,754	267,993	193,165	126,076	145,283	176,100	171,782	242,971	141,117	217,587	280,319	2,268,313
		経費	173,693	168,730	319,920	171,916	126,155	151,221	170,469	142,223	238,683	151,697	134,611	253,773	2,203,091
利益	-19,527	-16,976	-51,927	21,249	-79	-5,938	5,631	29,559	4,288	-10,580	82,976	26,546	65,222		
報酬	【つばめ工房】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
		予算	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	2,666,667	32,000,004
実績	2,509,262	2,719,948	2,709,967	2,455,192	1,787,153	1,679,098	2,133,504	1,714,275	2,096,792	1,675,124	1,435,884	1,640,602	24,556,801		
達成率	94.1%	102.0%	101.6%	92.1%	67.0%	63.0%	80.0%	64.3%	78.6%	62.8%	53.8%	61.5%	76.7%		
授産	【ピアつばめ】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
		予算	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	217,917	2,615,000
		実績	218,847	187,470	236,649	195,519	260,191	164,831	185,143	235,945	187,574	146,931	197,828	173,363	2,390,291
		経費	201,112	198,192	319,602	200,476	209,311	157,719	181,828	192,377	293,636	140,123	167,866	86,944	2,349,186
利益	17,735	-10,722	-82,953	-4,957	50,880	7,112	3,315	43,568	-106,062	6,808	29,962	86,419	41,105		

## 令和7(2025)年度下半期 事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

## ● 事業目標

1. 安心して過ごせる場所と仕事を頑張れる場所の提供。
2. 職員全体で事業所としての方向性(居場所の機能と仕事の機能)の共有と支援力を向上させる。
3. 利用者を増やし、安定とバランスの取れた事業運営を行う。

## ● 事業計画

1. 「既存利用者の心理的安全性の確保」と「新規利用者を受け入れる体制づくり」のために、利用者間での障がい特性等の理解を促進するため職員が仲介するなどし、利用者同士の関わる機会を増やす。  
個人の希望に沿った作業提供を行うことで満足度を高る。「明日も行こう」と思える環境作りに取り組む。  
移転に伴い、事業所としてのビジョンとテーマを作成した。居場所として利用したい、仕事の場所として利用したいを共存させることが出来るよう、細やかで、気の利いた支援を行う。  
受け継がれている温かみを継続。日々の不安や悩みを相談しやすい環境づくりをし、安心できる場所にする。  
**→利用者同士の関わる機会が増えたことにより、関係性での問題は生じた。職員が個別に話し、理解を促すことに努めた。仕事を頑張りたい人たちが主導になりやすいため、居場所として過ごしたい人々への理解を求めている。安心して過ごせる場所にし、継続して通所ができる環境を目指す取り組みを次年度も行う。**
2. テーマのひとつ「やってみよう」と一歩踏み出せる場所」を浸透させる。利用者が「やってみよう」と思えるよう、仕事で出来たことに対する喜びや、休まずに来れたことに対する達成感を感じてもらえるよう、声かけを行う。  
職員間で事業所のビジョンを共有し、それに基づいた職員の個性を發揮し、グループとしての支援力を向上させる。  
**→職員間での振り返りができていたケースでは利用者がやってみたいと言うことができていた。休まず来れた、できることが増えたと喜びに繋げることができた。一方で、通所までの一歩を踏み出せない利用者もおり、手厚くサポートをしても結果が伴わないことが多いのが課題。職員間で振り返りながら次年度は安定通所まで繋げたい。**
3. 利用者が増え、分母が大きくなった分、全体の通所率は下がっているため、通所率を上げる。特に、入って間もない利用者は徐々に通所日数を増やしたい傾向にあるため、早い段階でなれてもらえるように、細かな声かけを意識する。事業所パンフレットを作製し、近隣の病院や相談支援事業所への配布を行い、事業所の周知を行う。  
送迎希望者が相変わらず大半を占めるため、大人数を乗せることの出来る車種への買い替えを行い、受け入れ可能人数を増やす。  
将来的な利用者獲得を見据え、報酬単価を一段階引き上げるために、売り上げ増と工賃アップを目指していく。  
**→新規利用者数より退所者数が上回った。定着できず退所してしまう新規利用者が多かった。退所理由を分析して、定着ができるよう、支援方法や内容を検討したい。見学の希望者は昨年より増加している。他事業所と工賃を比較される事が多い。平均工賃については方針を決める。**

## 授産・訓練への取り組み報告

- ・店としての「つばめ工房」をチラシ配布により、地域に周知することで、売上アップを目指す。
  - ・商品ラインナップの増加を図る。従来はギフトセットなどで仕入れていた珈琲のドリップコーヒーバージョンを新たに制作する。また在宅支援で制作しているアクセサリーなどの店頭販売を開始し、売上アップに繋げる。
  - ・新たに「つばめ工房」のロゴを制作し、様々な商品に用いることで、つばめ工房のイメージを作り集客増に繋げる。
  - ・自主製品の商品開発を行う。季節に合わせ、菓子のラインナップを変更するため、試作を強化する。
  - ・店頭の整備(看板設置等)を行い、集客増に繋げる。
  - ・SNSを活用し、つばめ工房の活動を周知する。売上と新規利用者獲得の双方に繋げる。
- 夏以降、ドリンクの販売を開始した。夏と冬それぞれ、アイス、ホットのドリンクを作って提供した。また、季節物として、焼き菓子の試作・開発を進めているが店頭の売り上げが低調。SNSでの店の周知は継続して行った。フォロワーは少しずつ増加している。**
- 今年度は、地域の祭り、マルシェなど、事業所と付き合いのある地域で初めての出店を複数行った。事業所のある、田村校区の公民館や協議会などから受注している。また、油山病院や城南役所での月1回の販売会を行った。  
次年度は授産を強化する年にする。年間計画を作成し、計画に沿って製造、開発、外部販売、店頭販売を強化する。

- 授産事業内容・自主製品…シフォンケーキ、クッキー、押し花作品、アクセサリーの製造と販売

## その他報告

- ・研修機会の確保  
→オンラインによる配信研修などを活用しながら個々と職員全体のスキルアップを目指す。  
また、事業所内部での研修機会を増やす。
  - ・職員個々の目標設定(キャリアパス形成)を行う。  
→個別に目標設定をし、業務に取り組む。
  - 子育て中の職員に対して、子育て後の働き方も見据えた目標設定を行う。
  - ・定期的な職員面談(年2回程度)  
→職員個々との面談を行い、育成を視野に入れた業務整理と分担を行う。
  - ・・・他
- 下期に新たに職員を迎えた。研修は法人内研修や内部OJTを行っている。**

## 2025年 事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

## ● 2025年度事業目標

## 1 運営の安定化を図る

報告 通所者平均16名/日目標→13.1名/日であった。登録者は30名目標→2025年秋以降、21名を維持

主に体調や高齢化が理由で、利用者やその家族に状況変化があり、安定した通所が難しくなるケースが見られた  
新規利用者は、見学・体験に対応しても、契約に至らない(他事業所との比較、希望者自身の通所準備が整っていない)

## 2 利用者、職員共に本来の自分を発揮し、生き生きと過ごせる、自由で安心できる雰囲気のある場を作る

報告 「安心できる居場所」であるため、日頃の会話や相談対応を大切に、優先し時間をとるように工夫している

一方で利用者・職員共に作業に追われ(通所者・職員数の減少による)、利用者にとって相談しにくい雰囲気になっていた

## 3 利用者全員に十分に目と心を行き届かせ、それぞれの事情に沿った個別の支援を充実させる

報告 日々の様子観察や面談を行い、必要時は関係者も含めて支援を検討している。

職員間では、ミーティングで日々の状況を共有し、必要な支援内容を検討、実行、振り返りを行った。

## ●R6年度事業計画

## 1 利用者が安定して通所できるように「行きたくなる事業所」を目指す

報告 可能な限り相談対応の時間が取れるように工夫はしていたが、作業に追われる雰囲気になっていた

帳合の作業スペースを中心にレイアウト変更を行い、利用者が作業に集中したり、安心して過ごせる空間作りを行った  
長期欠席者(主原因は症状悪化や家族状況の変化)に関しては、関係が途切れないように、電話支援を行っている

## 2 建物の賃借料が高いので、運営の安定化のためにさらに家賃の低い所への転居の検討

報告 賃借料軽減のため、2025年度内に本部移転を受入予定だったが実現できず、2026年度中に実行する。

## 3 新規利用者を増やす

報告 新規利用者は、見学・体験に対応しても、契約に至らない(他事業所との比較、希望者自身の通所準備が整っていない)

引き続き、見学・体験の積極的対応、計画相談等支援者への声掛けと共に、パンフレットを現状にあったものに変更する

## 4 車両の買い替えを行う

報告 2025年度中に買い替え済、燃料費の削減につながっている

## 授産・訓練への取り組み報告

## ● 活動目標と報告

## 1 自主製品や請負作業を組み合わせ、切れ目なく作業を提供する。

報告 同時期に請負作業を2~3種提供し、利用者の希望や相性も含めて考え、1日の作業を調整している

来所者、職員数減少の中、納期があり工賃収入の中心である帳合(5400部/週)を軸に作業を組み立てることになり、  
不規則の請負作業、新規作業の受入がしにくく、作業のバリエーション拡大や工賃向上につながりにくい

自主製品の作成は現在困難、作成済みの製品は劣化してくため、可能な限り販売につなぐ方針

## 2 B型増加の中にあって、特色のある事業所となる

報告 既存利用者にとって、今の作業の内容・やり方が合わなくなっている

見学者は工賃・作業内容を比べて他事業所を選ぶ状況である事を踏まえ、新規作業の情報収集や見学を進めて行く

## 3 利用者の作業意欲を高める

報告 朝礼・終礼で作業目標数・成果の共有、できている事を伝えるようにし、意欲向上につながるようになっている

一方で「とにかく作業を早く進めないといけない」という意識が強くなっている利用者も増えており、穏やかな雰囲気作りの  
ためにも、全体の作業量調整を検討する時期が来ていると思われる

## 4 出席率の向上

報告 長期欠席に至る理由が、やむを得ない事情(症状悪化や家族状況の変化)であることが多いため、関係を途絶えさせず、

再度通所につながるよう様に電話支援を中心に行っている

## ● 課題

## 1 帳合に追われ、新しい作業を検討・導入する時間・人手が不足している。帳合は主な収入源なので、終了は非現実的。

## 2 曜日によって、利用者の出席率が激しく変動するため、作業の進捗に問題が発生。

→いずれも利用者の高齢化、利用者数・職員数の減少により、従来のあり方が合いにくくなった事が原因と思われる

→作業工程の見直し、新規作業導入に向けて情報収集や見学を進め、継続可能な授産活動体制の再構築を進める

→授産活動体制の見直しを進める中で、特色ある事業所となり、新規利用者獲得・平均利用者数/日の増加につながる

## その他報告

## ● 実習の受け入れ

→ぶらっとの実習生を、1日実習の形で受け入れた

→2025年度に職員1名が実習指導者講習会を修了したため、2026年度は可能な範囲で実習受入をしていく

## ● 職員研修

→虐待防止研修、身体拘束研修、福祉サービス苦情解決従事者研修、精神保健福祉士実習指導者講習会、

サービス管理者実践研修を受講済

## ● 避難訓練・通報訓練

→消火訓練を含めて実施済

## ● 行事

→映画鑑賞と買い物(マークイズももち)、クリスマス会、初詣、新年会(焼き肉ウエスト)、花見を実施

→年越しそばや雑煮振る舞い等、季節にちなんだ食事提供の企画も行った

## 令和7(2025)年度 事業目標・計画に対する報告(今後の対策)

## ● R7年度事業目標

- ・利用者やそのご家族をはじめ、地域の方、関係機関、ボランティア、職員が互いに繋がり協力して温かい居場所をつくり、また活動を通して地域に役立つ存在となれるよう努め『お互い様の共生社会』を目指す。

## ● R7年度事業計画

- ・利用者一人ひとりを温かく迎え安心を提供するとともに、利用者が役割を持ち主体的に参加できる活動も促進する。
- ・地域との世代を超えた交流を図り、地域貢献を通して当事者と地域の方々との相互理解を促進する。
- ・家族交流会を広くご案内し参加を呼びかけ、当事者ご家族が心の荷を下ろし、安らげる環境の提供に努める。
- ・医療機関との連携を強化し、退院促進・地域移行に努める。
- ・職員は研修を通して障がいの理解、制度の理解、自己理解に努め、次の世代を担う人材の育成にも力を入れる。

## ▶ 報告

- ・他人の役に立ちたいという思いで、自ら手伝ってくださる利用者の周囲への影響が広がって助け合いの輪が広がっている。
- ・地域団体やイベントでの子供たちの利用のほか、ご近所と交流できたことで、相互理解のきっかけとなった。
- ・家族交流会の案内は十分とはいえなかったが関係者にチラシを配布したり、家族会の研修に参加して家族支援を学んだ。
- ・交流会や見学会で地域生活の不安を和らげ、地域で生活することの魅力を伝えた。
- ・精神保健福祉に関する研修を受講し、実務に活かすことに努めた。また、実習生の受け入れは、人材育成のみならずスタッフの学びにも繋がった。

## I型事業への取り組み報告

## ● 目標・課題

1. 個別支援の充実と利用者主体の活動の促進
2. 地域貢献を通じた地域との相互理解の促進
3. 家族支援の充実
4. 医療機関との連携強化による地域移行の促進
5. 人材育成の強化

## ▶ 報告

1. 利用者に寄り添った根気強い傾聴、必要に応じた訪問や同行、関係機関との連携などで利用者の生活を支えた。  
LINEの連絡先交換によるトラブルが相次いだ。他人との距離を学び成長する良い機会にもなった。  
月1回の清掃活動をはじめ閉館時前の清掃、機関誌の発行作業、荷物運び、備品の設置等々で利用者の積極的、自発的な参加が多く見られるようになり、お互いに助け合おうとする雰囲気となった。
2. 地域団体へのサークル室の貸出しを行い、機関誌でご利用いただいた団体の活動を紹介したり、利用者の提案で畑の野菜配りを行い、ご近所からも差し入れをいただくなどの交流もあり、地域との相互理解に努めた。  
また、基幹の提案で地域でひきこもりがちな子供たちとぷらっとでe-sports大会を行った。  
利用者で温かくかかわってくださる地域ボランティアさんのご協力も大きく、相互理解に繋がっている。
3. 家族交流会のチラシを関係者などに配布し呼びかけた。8月には家族交流会に当事者講演を取り入れた。  
ami全国大会に職員全員で参加し、家族支援を学んだ。長年交流会に参加されているご家族の高齢化もあり、参加状況も少なくなっているため、今後も引き続き工夫していく必要がある。
4. 油山病院デイケアとの合同ポッチャ大会には毎回多くの利用者が参加し交流試合を楽しんでいる。ぷらっと見学会では地活の役割を丁寧に説明し、地域生活の不安払拭に努めた。  
個人クリニックとは個人情報理由に連携が取り辛く、利用者支援がうまく進まないこともあった。今後、個人クリニックとの連携も課題となった。  
にも包括の早良区のコアメンバー会議に参加したり、研修会を行ったことで地活の役割を再認識することができた。
5. 連絡会議や実習説明会などに参加し、学校、病院、他福祉事業所との意見交流から、知識を得ることができた。  
得た知識をスタッフで共有しながら今後も実践に繋いでいきたい。  
実地指導での指摘もあり、給与規定の見直しについてスタッフ間で話し合いを行い、理事長に報告した。  
ピアスタッフが10年かけて回復とともに少しずつ勤務時間を延ばし、社会保険に加入できた。

## その他報告

## ● 実習生の受入

西南学院1名、フチガミ3名、久留米大1名、麻生1名、福岡医師会看護2日実習13名、西南1日実習8名を受け入れた。  
実習生に専門職の魅力を伝えると同時にスタッフも改めて学びを深めた。実習後、採用に繋がったケースもあった。

## ● 居住サポート事業、その他

家賃の値上げが相次ぎ、より安い家賃の住居もなかなか見つからず住居探しに苦慮した。家賃値下げ交渉を行うなどの妥協策で対応した。  
利用者の中では詐欺に巻き込まれるケースもあり、注意をよびかけた。リポ払いや電子マネーなどの支払方法が多様化するにつれて金銭管理も難しくなっている。

1. 基本情報 ※( )はR6年度

登録数		来所者数	
117	( 96 )	7,095	( 6,614 )

2. 相談支援 (のべ回数)

相談支援数					支援方法						
身体	知的	精神	発達	高次脳機能	訪問	来所	同行	電話	電子メール	個別支援会議	関係機関
54	2,703	9,793	1,488	5	10	1,026	21	7,185	65	485	1,616

支援内容 ※右欄はピアによるもの																							
福祉サービスの利用等	障がいや病状の理解	健康医療	不安解消 情緒安定	生活技術 保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	住居	その他												
57	18	107	9	143	48	7,723	1,645	53	1	578	58	69	1	91	20	101	9	42	0	56	3	397	53

3. 生活支援や地域交流などの活動状況 (のべ人数)

※SST…ソーシャルスキルトレーニング

定期的なもの																					
ランニチ	カレー	おかず	おにぎり	おやつ	提供品 / 配布	ヨガ教室	書道教室	イラスト教室	ミニコン	清掃活動	つどい	コーラス	ポッチャ大会	オセロ大会	将棋大会	UNO大会	ゲーム大会	※SST	クッキングサークル	ガーデニング	
642	920	635	2,865	1,206	1,440	58	43	77	125	163	64	32	43	32	12	69	31	14	61	12	

不定期なもの		
4月/お花見 (15)	7月/七夕 (20)	油山病院合同ポッチャ大会 (22)
8月/ぷらっと見学会 (8)	Switch大会 (7)	9月/避難訓練 (12)
11月/芋ほり (10)	福精連スポーツ大会 (5)	12月/クリスマス会 (32) 鍋会 (24)
1月/ぜんざい会 (35)	2月/節分 (30)	バレンタイン (30)
3月/油山病院合同ポッチャ大会 (19)	バスハイク (30)	避難訓練 (13) Switch大会 (7)

4. 機能強化事業 (人数)

定期的なもの							
精福協会議	I型センター長会議	早良区保健所連絡会議	早良区部会	家族交流会	家族教室	ハートケア委員会	みんなのつどい委員会
2	4	13	5	22	1	15	1

不定期なもの			
西南学院実習指導説明会 (5)	西南学院講義ゲストスピーチ (1)	早良区福祉避難所連絡会 (1)	職員研修 (6)
あみ全国大会 (5)	ピアスタッフ説明会 (4)	ソーシャルサポートネットワーク研修会 (5)	実習報告会 (3)
ハートケア講演会 (12) 家族教室 (6) 虐待防止・身体拘束防止研修 (6)			
感染症予防研修 (5) フードバンクポジウム (5) みんなの集い講演会 (12)			

# 2025年度 西区第1障がい者基幹相談支援センター事業報告書

## 1. 事業実施内容

### (1) 総合相談支援・困難事例への対応

地域住民、相談支援事業所、行政、医療・教育機関等から寄せられる多様な相談に対し、電話・訪問・同行・会議等を通じて対応した。

特に、精神障がいや発達障がいを背景に、生活面・家族関係・医療・教育が複合的に絡むケースが多く、関係機関との調整を要する事例が多数見られた。

こうしたケースについては、個別相談で完結させるのではなく、ケース会議や担当者間の協議を通じて支援方針の整理や役割分担を行い、継続的な支援体制の構築を図った。

基幹相談支援センターとして、支援者が孤立せず対応できるよう、後方支援の役割を果たした。

### (2) 地域相談支援事業者に対する専門的指導・助言

区内外の相談支援事業所からの相談に対し、サービス等利用計画の作成やモニタリング、支援方針の検討、金銭管理・意思決定支援、グループホーム支援等に関する専門的助言を実施した。

電話による助言に加え、訪問や担当者会議への同行、ケース検討への同席など、実際の支援場面に即した関わりを行うことで、相談支援専門員の実践力向上と、困難事例の抱え込み防止につなげた。

### (3) 地域相談支援体制の強化・ネットワーク構築

相談支援事業所、グループホーム事業所、医療・行政・教育機関等との連携を基盤とし、各種ネットワーク会議や部会、情報交換の場に継続的に参画した。

個々のケース対応を通じて把握された課題を、地域全体の課題として共有し、支援の在り方や役割分担について共通理解を図る取組みを行った。

また、基幹相談支援センターの役割や活用方法について説明する機会を設け、地域の相談支援体制の底上げを図った。

### (4) 地域課題への取組み

#### ① グループホーム（GH）に関する取組み

グループホーム利用に関する相談や、入居後の生活・金銭管理・家族対応等に関するケースが継続的に寄せられた。

これを受け、GH事業所や相談支援事業所、行政等と連携し、検討部会や情報交換の場に参画するとともに、個別事例への助言・調整を行った。

これらの取組みを通じて、GH支援に関する共通課題を整理し、地域としての支援の方向性を検討する機会を重ねた。

#### ② 防災・災害時支援に関する取組み

防災検討部会や研修、関係機関との協議を通じて、災害時を見据えた支援体制づくりに取り組んだ。

特に、GHや在宅生活を送る障がいのある方を念頭に、平時からの連携や情報共有の重要性を確認し、顔の見える関係づくりを進めた。

### (5) 相談支援スーパービジョン（SV）・人材育成

相談支援専門員や関係職員からの依頼を受け、スーパービジョンやケース検討、助言対応を多数実施した。SVでは、支援者自身の関わりを振り返り、本人の意向を中心とした支援への立ち返りを促した。

また、初任者研修受講者等に対しても、協議会の役割説明や課題整理を行い、地域全体の相談支援力の向上につなげた。

## 2. 数値実績について（概要）

### 【主な実績概要】

- (1) 相談支援を利用した実人員：276人  
障がい者：253人、障がい児：23人  
主な障がい種別は、精神障がい（143人）、知的障がい（62人）、発達障がい（43人）であった。
- (2) 支援方法別対応件数：6,134件  
電話相談：2,079件
- (3) 関係機関対応：3,297件  
訪問・来所・同行等の直接的支援も一定数実施した。
- (4) 支援内容別件数（延べ）：3,836件  
福祉サービス利用等に関する支援：1,487件  
不安の解消・情緒安定、健康・医療、生活上の調整に関する支援が多くを占めた。

## 3. 事業の成果と課題

### (1) 成果

延べ 6134 件の相談対応の中で、個別支援と関係機関調整を並行して行う基幹相談支援センターとしての役割を発揮することができた。

Excel に記載のとおり、専門的助言、ケース同行、ネットワーク会議等を通じ、地域の相談支援体制を下支えする取組みを継続できた。

### (2) 課題

一方で、相談内容の複雑化や支援の長期化により、調整やSVに要する時間的負担が増加している。

限られた体制の中で、対応の優先順位や役割整理を行いながら、支援の質を維持することが今後の課題である。

## 4. 次年度に向けた取組の方向性

令和7年度の数値実績および活動実績を踏まえ、次年度は以下を重点として取り組む。

1. 相談量と支援の複雑化を踏まえた体制整理
2. GH・防災等の地域課題に対するネットワーク型支援の深化
3. SV・人材育成を通じた地域相談支援体制の質の向上

西区第1障がい者基幹相談支援センター

### 市町村における相談支援（2025年度）

（相談支援を利用している障害者等の人数）

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	253	49	2	49	136	32	12	18
障害児	23	0	0	13	7	11	0	1
計	276	49	2	62	143	43	12	19



（支援方法）

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール相談	オンライン相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
件数	397	97	94	2079	68	0	42	3297	60	6134
（再掲）オンライン							2	19		

（支援内容）

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
件数	1487	113	339	239	44	98	183	167	42
（再掲）ピアサポーター	629	42	226	132	5	53	70	73	11

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
件数	9	19	1096	3836
（再掲）ピアサポーター	4	9	220	1474